

眼科検査のあれこれ

～眼科コラム～

聖隷沼津病院 眼科検査室

眼圧検査について

眼に風が「プシュッ」と出てきて、苦手という方が多い眼圧検査。
あの風は必要なのか、そもそも眼圧とはなんなのか解説していきます。

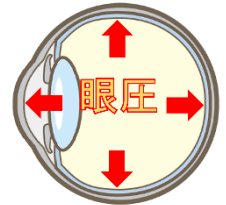


眼圧ってなに？

眼圧とは、眼球内の圧力のことで、眼球の形状を保つ役割をしていて、多くの眼疾患の病状の把握や治療経過の判断に必要とされています。

眼圧の上昇により、眼の網膜視神経細胞という細胞が圧迫を受け、障害を受けることにより、視力や視野に影響が現れるとされています。

眼圧は1日の時間帯や季節、薬、喫煙、飲酒などさまざまな影響を受け、変動することがあります。

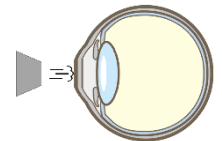


20mmHg が正常値の上限と云われていますが、眼圧が正常範囲内でも緑内障の所見が認められる正常眼圧緑内障もあるため、眼圧が正常範囲だからといって、緑内障ではないとはいえません。

あの風は必要？

眼圧検査には、接触型と非接触型の2通りの測定方法があります。

風が「プシュッ」と出るタイプは非接触型のもので、空気を眼に噴射し、角膜が圧平されるのに要した時間から眼圧を算出しています。



まばたきやまつげの影響で精度が低下したり、測定時に力が入ってしまうことで、眼圧が高くなる場合があります。心拍や呼吸の影響を考慮し、最低3回の測定を行います。

緑内障

眼圧が関係する病気はさまざまありますが、多くの方が思い浮かぶのは緑内障かと思います。

緑内障は眼圧の上昇によって視神経が障害される病気です。ほとんど自覚症状がないまま進行していきます。

40歳以上の約20人に1人は緑内障と考えられ、日本人における視覚障害の原因疾患の第1位で、治療せずに放っておくと失明につながるおそれがあります。

緑内障では視野に障害が現れるため、進行とともに見えない部分が広がっていきます。普段、両眼を使って生活しているため気づきにくく、気づいた時には、見えない部分がかなり広がっていることがあります。

緑内障の早期発見のためにも、40歳を過ぎたら定期的な眼の検診をおすすめします。



視野障害の進行イメージ